

委員	改訂版(素案)ページ	質問・意見内容	対応状況
高島委員	【資料1】 4ページ 目標値の修正	全て数値化されたことは、わかりやすくなった。特に市の審議会等における女性委員の割合、ワークライフバランスの用語の認知度等は、もっと引き上げられることを望んでいたため上方修正されたことは大いに評価できる。	【原案どおり】 計画の進捗度合を可視化するため成果指標は全て数値化し、達成している目標については計画のさらなる推進のため、伸び率を算出し上方修正等しました。
高島委員	【資料1】 6ページ 体験談等の追記	イメージしやすく、意識変化に繋がる。	【原案どおり】 体験談については、読み手がイメージしやすいよう具体的な内容に基づく記事内容にします。
前田委員	【資料2】 1ページ 「2. 計画策定の経緯と背景」4行目	「その一方で」で文章がつながっていますが、その前の文章もキャリアアップを諦める等、負の状況が示されています。その後も管理職割合が低いという負の状況が示されているので、「加えて」などの方が適切ではないかと考えます。	【対応済】 ご指摘を踏まえ、文言を修正します。 (修正案) 「その一方で」⇒「加えて」
米満委員	【資料2】 1ページ 下から7行目	「政治分野における男女共同参画の推進～」の文章が入っていますので、ぜひ、P35の具体的施策6の具体的取組に、政治分野における男女共同参画の推進をいれてはどうか？ 熊本市議会議員、県議会議員、各自治体の議員の男女構成比を、資料として添付することを検討してはどうか？	【原案どおり】 「政治分野における男女共同参画の推進」に関しては、市議会において、本計画とは別に、国の方針や議会内での議論等を踏まえながら、多様な人材が参画しやすい環境の整備に取り組まれております。 なお、本市議会では、令和3年に関係例規を整備し、議会の欠席理由に「育児」「出産」や「配偶者の出産」等を追記したほか、委員会へのオンライン出席事由への「育児」等の追記を検討しており、議会においても積極的に家庭生活との両立支援のための環境整備を行っています。
米満委員	【資料2】 2ページ 計画策定の経緯と背景(脚注)1 男女共同参画 13ページ 2行目	性的マイノリティーへの配慮として、「すべての男女が」を「誰もが」に修正した方が良いのではないのでしょうか？ 同様に、P13 2行目も 男女がともに → 誰もがともに がよいのでは？	【対応済】 ご指摘を踏まえ、文言を修正します。 (修正案) ・「全ての男女が」⇒「誰もが」 ・「男女がともに」⇒「誰もがともに」 ・ご指摘の箇所以外の「男女がともに」の部分についても同様に修正します。
米満委員	【資料2】 3ページ 3(4)	文章の日本語が分かりにくいかと思います。本計画の一部として、～を位置づけます。ではないのでしょうか？	【対応済】 ご指摘を踏まえ、文言を修正します。 (修正案) ・「本計画の一部を・・・として」⇒「本計画の一部として・・・を位置づけます」
前田委員	【資料2】 5ページ 表及び1行目	第1次計画の基準値は平成30年度ではなく、平成20年度ではないのでしょうか。 また、文章の1行目は「第2次計画の実績値は、平成30年度(2018年度)の基準値と比べ」と修正された方が表の見方がわかりやすいと思います。	【対応済】 ご指摘を踏まえ、表中の第1次計画の基準値年度及び1行目の文言を修正します。 (修正案) ・「平成30年度」⇒「平成20年度」 ・「第2次計画の実績値は、」を追記
前田委員	【資料2】 7ページ(1)	6行目の「しかしながら～」の理由は図からはわからないのですが、他にあるということでしょうか。	【対応済】 ご指摘を踏まえ、文言を修正します。 (修正案) 7ページ7行目、「その理由も」の後に、「51ページの参考資料図-4で示すとおり、」を追記

前田委員 米満委員	【資料2】 7ページ(1) 下から5行目	・48ページの図は削除となっておりますが、文章と合いません。 ・48ページの参考資料図-1が削除となっておりますが、このままでよいのでしょうか。	【今後対応】 ご指摘を踏まえ、48ページの参考資料図-1を今年度の数値に修正し、その内容を基に7ページ下から5行目の一文を修正します。
高島委員	【資料2】 8ページ 地域活動の参加状況	地域活動の参加状況では、コロナ禍が影響しているのか？人々の気持ちが、内向きに変化しているのであろうか・・・具体的な対策が望まれる。	【原案どおり】 地域活動に参加していない理由として、51ページ参考資料図-4のとおり、「一緒に参加する仲間がいない」及び「人間関係がわずらわしい」と答えた割合は、平成30年度に比べ増加の幅が大きかったことから、地域における人間関係の希薄さが浮き彫りとなっており、コロナ禍も要因の一つと考えられます。 地域イベントへの参加を促す取組として、具体的施策3-④にあるように、「くまもとポイント事業」(令和6年度に検証・令和7年度本格運用開始予定)を活用するなど、地域における男女共同参画の取組を進めていきます。
前田委員	【資料2】 9～19ページ 市民意識調査について	9～19ページのデータは男女別で示した方がいいと思いますが、データはあるのでしょうか。	【対応済】 ご指摘を踏まえ、男女別データで示すべき内容のものは、参考資料の図で示すよう修正します。
米満委員	【資料2】 25ページ 図-12	P25 図-12 の グラフ内の 女性就業率の%単位がない。70.9 の数字が上によりすぎていて 誤解しやすい かと思います	【対応済】 ご指摘を踏まえ、25ページ図-12を修正します。
本田委員	【資料2】 30ページ 重点的取組	地域活動の推進について、リーダーになる女性が少ないとのことですが、経験では、例えばPTA会長は確かに男性優位ですが、それを支える実働部隊は大半が女性ではないかと思えます。男女共同参画の主体を、リーダーに置くのか、組織全体の中の比率で考えるのかは、はっきりさせておかないといけないのではないかと思います。 男女共同参画の難しさは、当たり前すぎるのが当たり前になっていない今の日本社会に問題、課題があるように思えます。 地域やPTAにおける活動の下支えは、今もほとんど女性が担っているように思えます。適材適所なのか理不尽なのかは、誰が判断するのが難しいところです。かつて、女性が活躍し、盛んに活動していた女性の会(婦人会)や子ども会は風前の灯です。個人的には必要な会のように思いますが、十把一絡げに引き受け手がいないからなくしてしまえば、男女共同参画どころではなくなってしまいます。男だ女だではなく、地域コミュニティーの再生を急がないと、古き良き日本の地域での助け合い(共助)そのものがなくなるのは時間の問題ではないかと思えます。	【原案どおり】 地域における男女共同参画の推進は、性別による役割意識をなくし、男性も女性も互いの協力のもと対等な関係で進めていくべきものと考えています。 地域活動におけるプロセスに女性の意見を取り入れるため、女性リーダーを増やすことも、組織における女性の割合を増やすこともどちらも重要であると認識しています。 一方で、コロナ禍等の影響から地域コミュニティが衰退し、地域活動への参加自体ができなくなってしまうことは課題であると認識しております。 今後も各区まちづくりセンター等において、地域の住民同士で支えあって安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。
米満委員	【資料2】 31ページ 具体的施策1 ③ 家庭科教育の充実	P31 具体的施策1 ③ 家庭科教育の充実 → 教育の充実 のほうが自然かと思えます。	【対応済】 ご指摘を踏まえ、具体的施策1-③の文言を修正します。 (修正案) 「家庭科教育の充実」⇒「教育の充実」